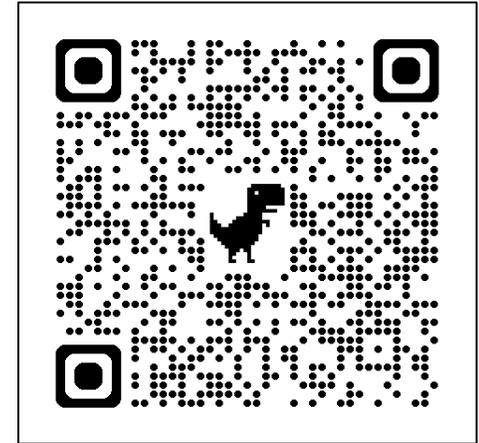




第 2 回 柏市学校教育情報化有識者会議

令和 6 年 11 月 25 日
柏市教育委員会指導課

- 1 開会の言葉
- 2 座長あいさつ
- 3 第1回有識者会議の振り返り
- 4 協議
 - (1) 目指す姿について
 - (2) 基本的な方針及びKGI, KPIについて
 - (3) 基本的な方針を実現するための方向性について
- 5 事務連絡
- 6 閉会の言葉



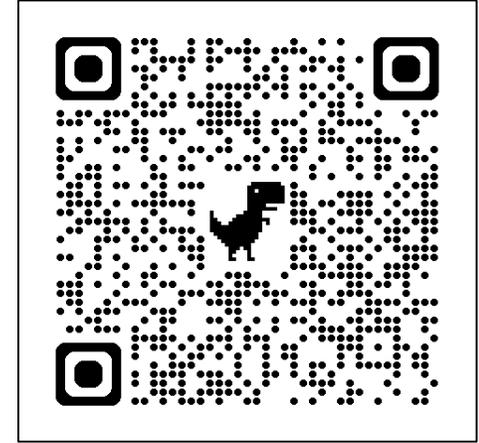
↑資料はこちらから

4 第1回有識者会議の振り返り



第1回有識者会議での主な御意見

- 目指す姿について
- KGI, KPIの設定について
- 基本的な方針を実現するための方向性について



↑資料はこちらから



- 目指す姿について
- KGI,KPIの設定について
- 基本的な方針を実現するための方向性について

第1章 総論 2 目指す姿



第1回有識者会議時の提案

- 児童生徒
全ての児童生徒が、クラウドツールを基盤としたICTの日常的な活用を通して、学びの質の向上を図り、学習の基盤となる情報活用能力を身に付け、生涯学習者としての基礎を築こうとしている。
- 教員
全ての教員が、自己研鑽等をとおして、意欲的にICT活用指導力を向上させ、児童生徒1人1人の学びを深めるための伴走者として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいる。
- 学校
全ての学校が、業務の負担軽減を図るため、校務や学習指導にクラウドツールを基盤としたICTを積極的に活用していく組織的な取り組みや体制づくりを行い、教員の児童生徒と向き合う時間を確保している。

御意見

- ・2040年代を見据えて、今の子供たちが、将来Society5.0時代になったときに、主体的に活躍できるような場面を想定することが必要
- ・ICTを自分の生活や学習にどう生かして、より良い人生、学びを続けていくかっていう、そういう視点が大事
- ・世界が一目置くような町なんだということを目指すくらいのものがほしい。柏市はICT教育のパイオニア、その強みを膨まらせてほしい。
- ・大きな将来どういう人を育てていきたいか、それを基に教員像、学校像を明記した方がよいのではないか。

修正のポイント・方向性

- ・2040年代を見据えた目指す姿を設定
- ・目指す姿を児童生徒を中心とし、関連付けて教員・学校の姿を表す。



第1回有識者会議での主な御意見

- 目指す姿について
- **KGI, KPIの設定について**
- 基本的な方針を実現するための方向性について



第1回有識者会議で提案したKPI, KGI

【KGI】

日常的にICT活用を活用して学びの質を高めている児童生徒の割合
→目標値 100%

【KPI】

「タブレット端末を使うことは勉強に役立つと思いますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合（柏市生活・学習意識調査）

「タブレット端末を活用して、気になったことを簡単に調べることができますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合（柏市生活・学習意識調査）

「タブレット端末を活用して、調べたことを比べたり、整理したりすることができますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合（柏市生活・学習意識調査）

「タブレット端末を活用して、調べたことをわかりやすく、工夫してまとめることができますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合（柏市生活・学習意識調査）

「タブレット端末を活用して、自分の考えを相手にわかりやすく伝えることができますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合（柏市生活・学習意識調査）

「タブレット端末を活用して、自分に合った方法で学びを進めることはできますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合（柏市生活・学習意識調査）

御意見

・KGIの表記の仕方について、目指す姿と関連性を持たせた方がよい。
学びの質が教科学習ベースに捉えられがち

・KPIについてある程度、目標数値みたいなものを設定して、見ていく必要があるのではないか。
・目標値を100%に設定していくのであれば、達成の度合いとしては8割程度という形が多いかと思う。
・学年によって、内容が違うので、その学年ごとという視点も必要ではないか。
・前回と比べて何%増加したとか、そういう、測り方だと定量的ではないか。
・ICTを単純に消費するのではなくって、自分の学びに上手く活用していけるような児童・生徒みたいなことがうまく盛り込めれば良いのではないか。

修正のポイント・方向性

- ・KGIを「目指す姿」とリンクさせる
- ・令和11年度までの目標値の設定
- ・学びの質を具体化



有識者会議で提案したKPI, KGI

御意見

【KGI】

子供の学びについて ICT を活用して改善することができる教員の割合

→目標値 100%

【KPI】

教員がICT機器を活用した授業の割合を、「週2～3回」または「毎日」と回答する教員の割合（教職員向けICT端末利活用調査）

ICT活用に係る研修を受講又は実施した教員の割合（文科省 学校における教育の情報化等に関する調査）

児童生徒の1人1台端末の家庭への持ち帰り状況（教職員向けICT端末利活用調査）

指導者用デジタル教科書の活用状況（教職員向けICT端末利活用調査）

授業中にICTを活用して指導する能力に関する調査のうち「指導できる」または「やや指導できる」と回答する教員の割合（文科省 学校における教育の情報化等に関する調査）

児童のICT活用を指導する能力に関する調査のうち「指導できる」または「やや指導できる」と回答する教員の割合（文科省 学校における教育の情報化等に関する調査）

・KPIについて目標数値を設ける。教員なので100%を目標でよいのではないか。

修正のポイント・方向性

- ・KGIを目指す姿とリンクさせる
- ・KPIで数値目標を入れる



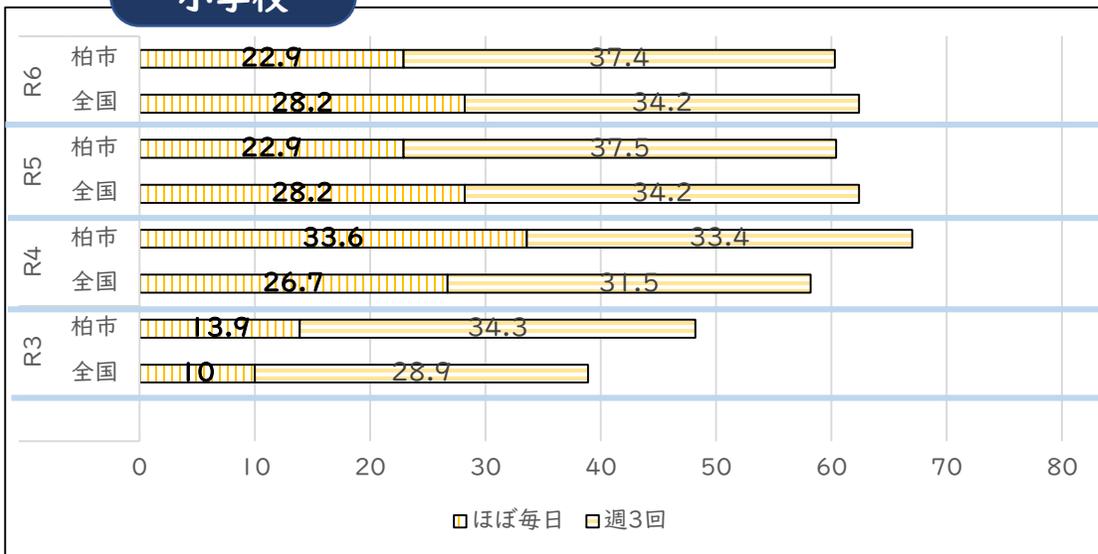
第1回有識者会議での主な御意見

- ・目指す姿について
- ・KGI,KPIの設定について
- ・基本的な方針を実現するための方向性について

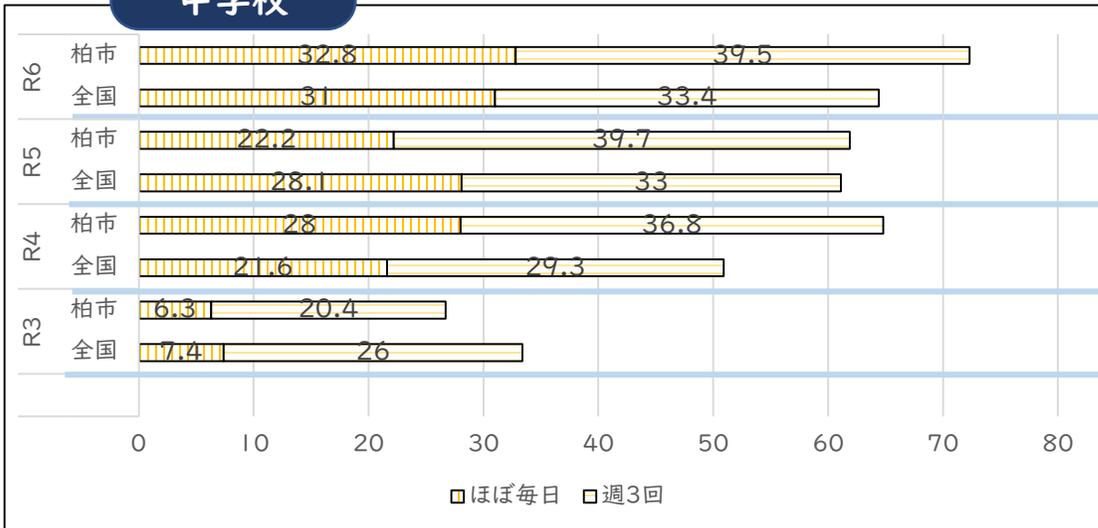


授業でのICT端末の活用頻度

小学校



中学校



内部委員御意見

- ・ICT使用率が下がってきているので分析が必要
- ・令和3年度～4年度はコロナ禍だったので、オンライン授業が多かった時期である。そのあたりも検証すべき

有識者御意見

- ・令和5年度の調査では下がるという理由について**個々の学校や学級を見ると、大きな差が出ているはず**。そのあたりを、分析する必要があるのではないか。
- ・表ではなくグラフの方が見やすい。
- ・校長先生の認識による違いがある可能性はある。コロナ禍が明けたことでパソコンよりも体験活動を重視した結果、減少したということも考えられる。

令和6年度も含めた現状

- ・小中学校、共に令和4年度から令和5年度にかけては減少
- ・小学校は令和5年度から令和6年度にかけては横ばい
- ・中学校は令和5年度から令和6年度にかけては上昇し過去最高

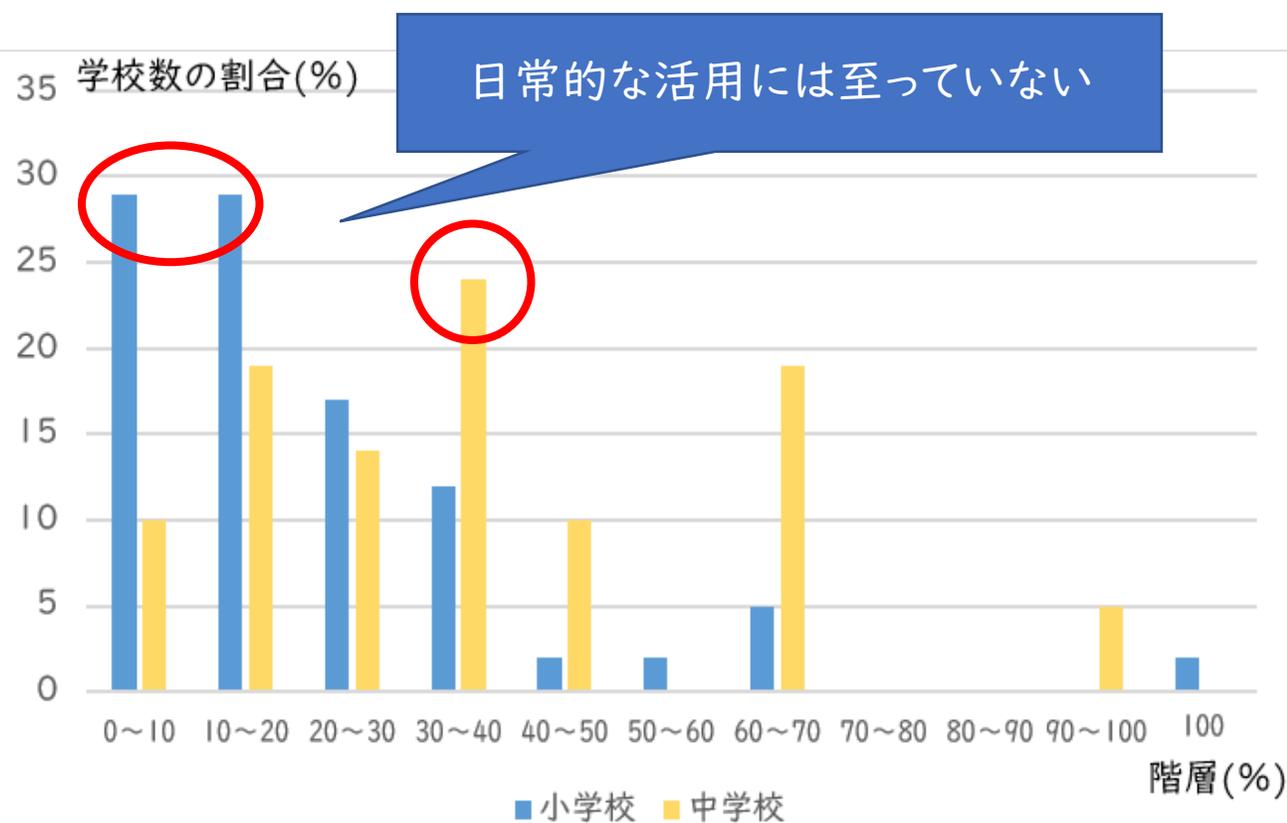
各校の実態



令和6年度 全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙の回答結果から)

質問項目 これまで(中学校は中学校在学中)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

「ほぼ毎日」活用したと回答した割合(%)	小学校		中学校	
	校数(校)	階級割合	校数(校)	階級割合
0.0 ~ 10.0	12	29%	2	10%
10.0 ~ 20.0	12	29%	4	19%
20.0 ~ 30.0	7	17%	3	14%
30.0 ~ 40.0	5	12%	5	24%
40.0 ~ 50.0	1	2%	2	10%
50.0 ~ 60.0	1	2%	0	0%
60.0 ~ 70.0	2	5%	4	19%
70.0 ~ 80.0	1	0%	0	0%
80.0 ~ 90.0	0	0%	0	0%
90.0 ~ 100	0	0%	1	5%
100	1	2%	0	0%



「ほぼ毎日」活用したと回答した代表値	小学校	中学校
平均値	23.5%	35.6%
中央値	15.8%	32.7%
最大値	100%	90.4%
最小値	0%	5.3%
範囲(最大値-最小値)	100%	85.1%

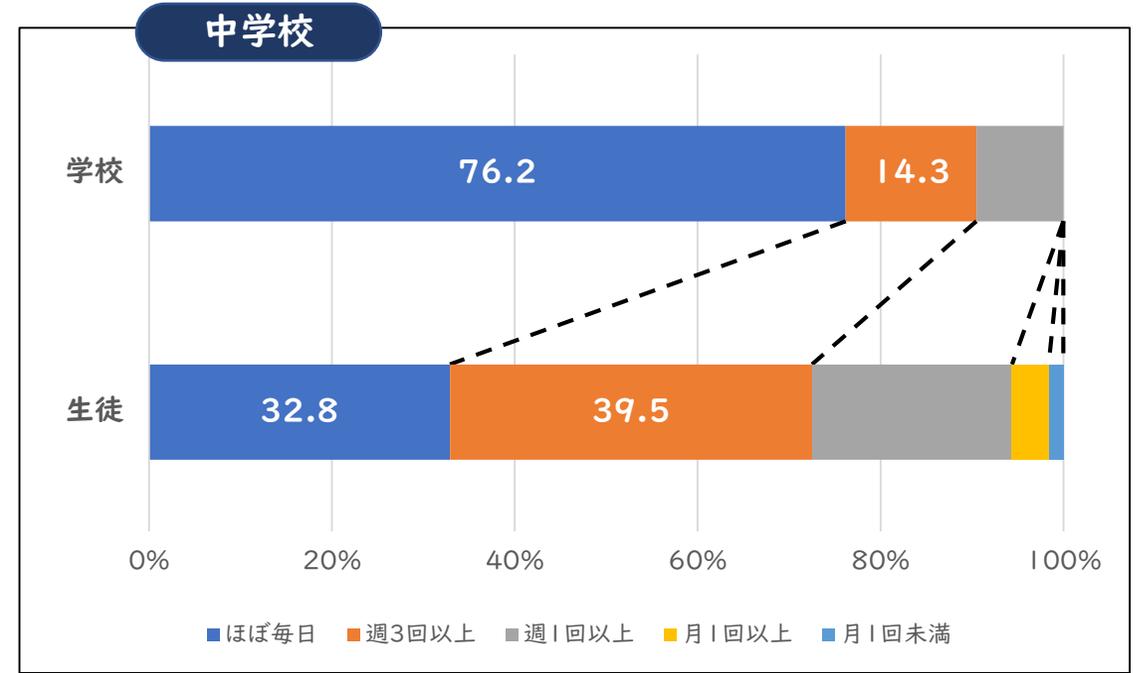
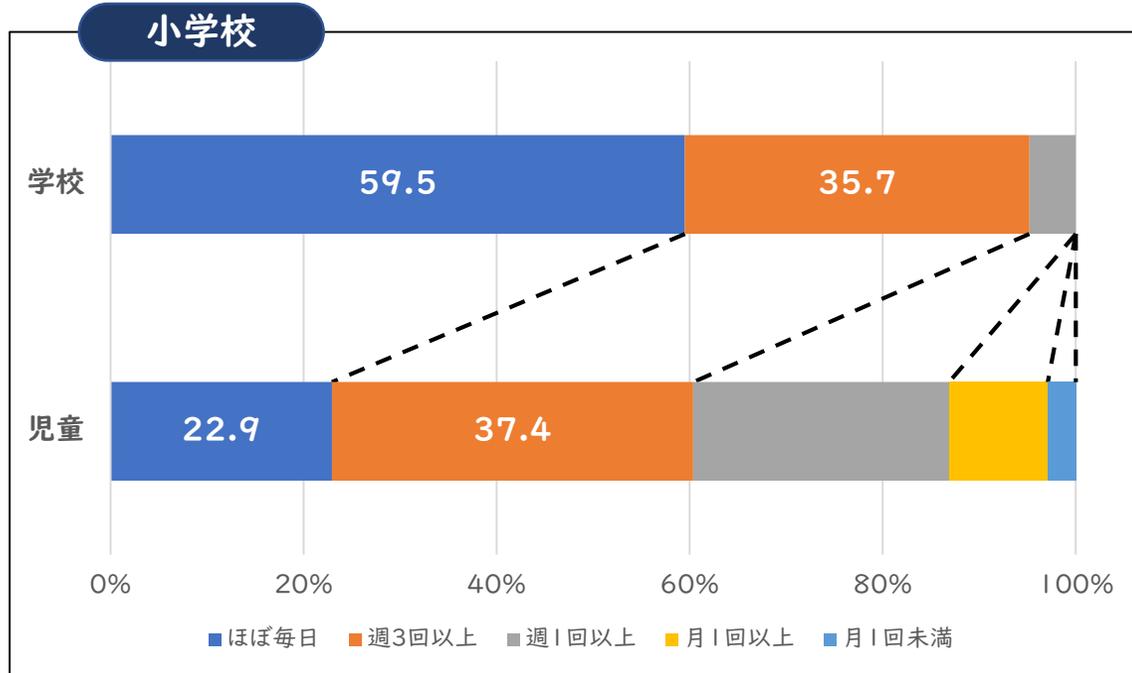
学校間で活用状況に大きな差がある

各校の実態（学校と児童生徒の活用の認識）



令和6年度 全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙・学校質問紙回答の比較）

これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか
(調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか)



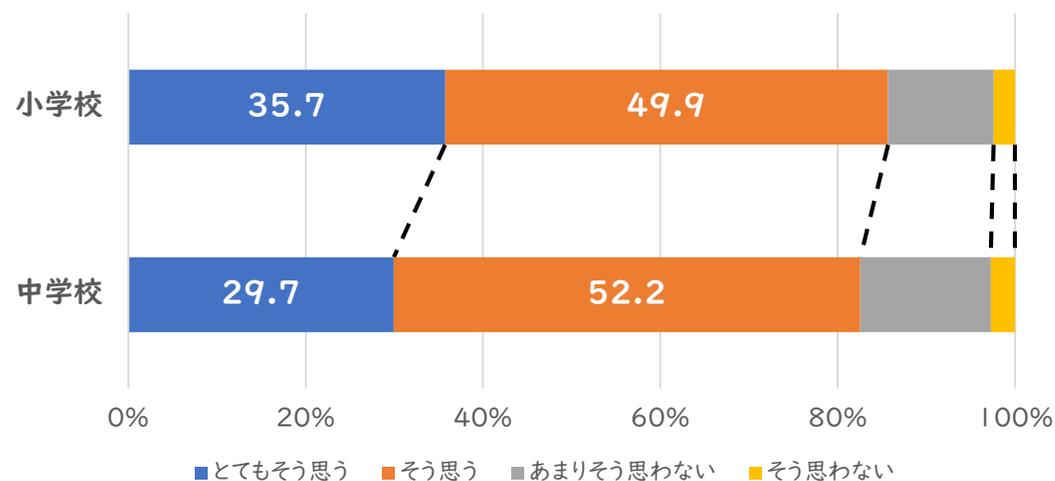
学校と児童生徒とでは「活用」に対して認識にずれが生じている可能性がある。

児童生徒の活用の考え方（仮説）



令和6年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査から

これまでの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。
(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



- 肯定的意見の割合は
小学校:85.6% 中学校:81.9%だが、
- 「とてもそう思う」と回答した割合は
小学校:35.7%, 中学校29.7%となっており3割弱の回答となっている。

「個別最適な学び」が十分に実感できていないのではないかと...

端末活用が主体的なものとなっていない可能性がある



有識者御意見

- これからの時代を生きるデジタル人材ではなく、これからの時代に活躍するなどの表現はどうか。
- 特別支援教育について支援をするためのICT活用だけでなく、優れた能力を発揮できるようにするためのというような書き方も必要ではないか。
- 中学校プログラミング教育について、技術の授業が中心である。**技術科を教える教員は専門外も多いため、学校間格差はそのようなことでも影響を及ぼしている可能性があるのではないか。**
- 高校生の実態としてICTスキルの差が中学校段階での活用差に影響しているように感じる。**小中学校段階で学校間格差を生まないような取り組みが必要となる。**
- 高校で情報専門の教員が少なく、教科の授業を専門外の先生が免許をとって授業を教えている状況もある。国や県とも連携しそういった先生への研修等の支援も必要であると思う。
- 柏市では様々な取り組みが行われているが、**その取り組みをより普及させていくため、普及の足かせとなっている課題を洗い出し、ワンランク上にいくためのもうひと工夫、具体的な取り組みが必要であると思う。**



有識者御意見

- 調査結果における課題の整理（令和4年度から令和5年度にかけて減少傾向にあったこと等）が必要であり、記載があった方がよい。それを基にどのような施策が必要かという一体感を持たせられるようにしていくともう少し見やすくなる。
- 教職員研修の参加が少ない。研修の内容としてはよいと思うのだが、**教育委員会が大事だと思って進めていることと現場の先生たちの意識に差があるように感じる。**
- 研修内容について参加してみたいくなるような魅力ある表現が必要かもしれない。
- 方針について例えばこの図1についても、今後の取り組みの方向性を明確にした方がよいのではないか。例えばここを深めていきたいとか。ステップ0からステップ3まであることをさらに学校ごとに浸透させていきたいとか、さらに先の5年間でどういうふうな取り組みをしていくのかという書き方をすることが一つ考えられる。



有識者御意見

- 令和11年度まで、これが進んでいくわけだから、今駄目だから盛り込まないということではなくて、目指す形が必要なのではないか。
- 今までやってきていいところをもっと膨らませるようなことが必要ではないか。
- 校務支援システムが学校でしか使えないというところもあるので、子育て世代の先生等が、結局、夜間や土日に、仕事をしたりすることが多いのが事実。家から校務支援システムを見ることができれば、その辺りがうまくできるようになれば、働きやすさにも繋がったり、働きがいにも繋がったりするのかなと思う。
- 文部科学省から出ている、**ゼロトラストセキュリティ対策を実現して、ロケーションフリー化を目指すとか、今のトレンドのことも、内容に盛り込むとよいのではないか。**



(1) 目指す姿について

資料01【本編】
P1~2

第1章 総論 2 目指す姿



目指す姿の構成

児童生徒

これからの時代に活躍する人材

教員

これからの時代に活躍する人材を育成するために指導力向上を図る教員

学校

これからの時代に活躍する人材を育成する教員が最大限に力を発揮するための組織・体制づくりを行う学校



児童生徒

新たな価値の創造に挑戦し、これからの柏をつくり、牽引する児童生徒
～ デジタル技術を活かし、自他との対話を通じて、個々の力を伸ばす ～

教員

これからの柏をつくる児童生徒の資質・能力を最大限にファシリテートできる教員
～ これからの時代の指導力向上を目指し、主体的に学び続ける ～

学校

教育DXに取り組み、よりよい教育に向けて絶えず改善する学校
～ 学習指導・校務・研修の相似形の中で進める体制づくり ～



児童生徒

新たな価値の創造に挑戦し、これからの柏をつくり、牽引する児童生徒
～ デジタル技術を活かし、自他との対話を通じて、個々の力を伸ばす ～

これからの時代に活躍する人材

- ・ 課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現、振り返り・改善といった学びの基盤となるプロセスを習得し、予測困難な時代においても、生涯にわたって学び続け、未知の課題に対応できる資質・能力を身に付ける。
- ・ デジタル技術の活用をとおして、情報リテラシーの向上を目指すとともに、情報社会において適切な行動を取るための基礎的な考え方や態度を身に付ける。
⇒ **情報活用能力の育成**
- ・ クラウドツールの活用をとおして、学校内外に関わらず多様な他者と協働しながら探究するとともに、多様性を認め合い、創造性を伸ばす。
⇒ **地域等との連携，社会参画，新たな価値の創造**
- ・ デジタル技術等の活用をとおして、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り，“自分らしさ”を最大限に伸ばしていく。
⇒ **自己肯定感の向上**



教員

これからの柏をつくる児童生徒の資質・能力を最大限にファシリテートできる教員
～ これからの時代の指導力向上を目指し、主体的に学び続ける ～

これからの時代に活躍する人材を育成するために

- ・ これからの時代を生きる児童生徒にとって必要な資質・能力は何かを理解し、どのようにして育むか具体的な教育活動像をつかむ。
⇒研修の機会，優良実践の周知
- ・ 研修等におけるクラウドツール等の活用
⇒児童生徒の学び方を教員研修等の場でも同じように取り入れていくことで，教員が体感し学習指導に生かす
- ・ 教員がICT操作スキルの不安を超えて，自信をもって授業に取り組む
⇒ICT支援員（IT教育支援アドバイザー）等，多様な人と協力し合って，前向きに学習指導の工夫改善に取り組む



学校

教育DXに取り組み、よりよい教育に向けて絶えず改善する学校
～ 学習指導・校務・研修の相似形の中で進める体制づくり ～

よりよい教育に向けて絶えず改善していくために

- ・よりよい教育を行うためには、教員が研修・研究を行うための時間を捻出することが必要
- ・時間を捻出する業務の効率化等を含めた業務改善を図る必要があり、教育DXを推進していく必要がある。

➡働き方改革の推進

- ・教育効果を高めるために、情報の保護を大切にしながら、スタディログやライフログなどの教育データを、AIなどの新たな技術も積極的に取り入れて、分析・活用に取り組む。

➡教育データ利活用の推進

- ・教育情報セキュリティーへの意識を高め、DXの推進に取り組む。

➡教育情報セキュリティーを確保した中で、効率的な校務事務の推進



(2) 基本的な方針 及び KGI , KPIの設定

資料01【本編】

P23～27

資料01【本編】

P30～32



ア 情報活用能力の育成

- 文部科学省が作成した「教育の情報化に関する手引き(追補版)」に示された「情報活用能力の体系表例」や千葉県が作成した「情報活用能力育成体系表」を基に、市独自の体系表を作成し、各学校でのカリキュラム・マネジメントを推進する。
- 高等学校においては、小・中学校から情報活用能力が体系的に育成していくことや小中学校の取り組み等を共有することで、教科「情報」等の指導内容の充実を図る。

イ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- 児童生徒がICTを学びの選択肢の1つとして捉え、自分の学習状況や実態に応じて、学び方を自己決定していく力を育成していく。
- 端末の持ち帰りを行うことで、授業以外にも自分の興味・関心に応じた多様な学びを実現していく。



ウ 様々なデジタル技術の問題解決や探究的な活動へ活用

- 教科等横断的に情報活用能力を育成するため、論理的思考力や創造性、問題解決能力を育む指導を体系的に行い、必要に応じて地域、大学、企業等との連携による課題解決学習や探究的な学習など、ICTを効果的に活用したプログラミング教育やSTEAM教育⁸を実施し、柏市の未来を創造する人材を育成する。
- 児童生徒がデジタルデバイスを始めとしたテクノロジーをよりよく使うために必要な知識や態度を身に付け、ICTの積極的な活用について主体的に考え、判断するための学習を実施する。

エ 情報に対する責任について考え、情報や情報機器をよりよく使う態度の育成

- 児童生徒が自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持つことで、犯罪被害を含む危機を回避し、情報を正しく安全に利用できるよう、各教科等において、情報活用能力を育成するための学習を実施する。さらに、主体的かつ当事者意識をもって情報を活用し社会や個人の課題を解決する力を育成する。
- インターネット上のコミュニケーションも日常生活と同様に相手がいることを意識させるなど、自分が加害者、被害者になり得ることを理解させるための指導を充実させる。
- 自らの活用状況を振り返りながら、適切に活用できる力を育む。



【KGI】

問題解決や探究的な活動に、デジタル学習基盤を活かしながら、情報活用能力を発揮している児童生徒の割合
→目標値 100%

【KPI】

項目	内容	調査	目標値	
A-1	「端末を使うことは学校の活動に役立つと思いますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合	柏生	R 8	R 11
			80%	100%
A-2	「学習に必要なことを、端末を活用して集めることができますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合	柏生	R 8	R 11
			80%	100%
A-3	「学習に必要なことを、端末を活用して整理することができますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合	柏生	R 8	R 11
			80%	100%
A-4	「学習に必要なことを、端末を活用してわかりやすくまとめることができますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合	柏生	R 8	R 11
			80%	100%
A-5	「端末を使った話し合いをして、自分の考えを相手に伝えることができますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合	柏生	R 8	R 11
			80%	100%

A-6	「端末を使ったり、使わなかったり、自分に合った学習の仕方を自分で決めて学習を進めることはできますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合	柏生	R 8	R 11
			80%	100%
A-7	「プログラミングや生成 AI など様々なデジタル技術の問題解決や探究的な活動に活用することができますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合	柏生	R 8	R 11
			80%	100%
A-8	「端末を使うときに、（情報に対する責任について考え、）学校や家庭で決められたルールを理解し、正しく使っていますか。（よりよい使い方をしていますか）」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合	柏生	R 8	R 11
			80%	100%



ア 学校の教育情報化のサポート

- 学校間・教員間のICT活用格差解消に向けた取り組みを推進する。
- 端末の安定的運用のための支援体制を構築する。
- 学校内外を問わずICTに関する高い専門性を有する人材を積極的に活用する。

イ 質の高い、より実践的な研修の実施

- 「柏市GIGAスクール」を実現するための実践的な研修を実施する。
- 研修では、教員一人ひとりがデジタル学習基盤の有用性を体感できるよう、デジタル学習基盤を積極的に活用していく。
- ソフトウェア等の効果的な活用推進を図るため、高い専門性を有する人材と連携し、操作研修会を実施する。

ウ 多様な児童生徒の実態に応じて、ICTを活用した学習活動の支援

- 不登校、病気療養、障害、日本語指導を要すること、特別分野に特異な才能を有することに等により、特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな支援や、全ての児童生徒の多様な学びを確保するためにICTの特性を最大限に活かした学習を実施する。



【KGI】

子供の資質・能力を高めるために、**デジタル学習基盤を活かした授業改善**をし続けることができる教員の割合
→目標値 100%

【KPI】

項目	内容	調査	目標値	
B-1	教員が デジタル学習基盤 を活用した授業の割合を、「週2～3回」または「毎日」と回答する教員の割合	柏教	R8	R11
			80%	100%
B-2	ICT活用に係る研修を受講又は実施した教員の割合	文情	R8	R11
			80%	100%
B-3	「児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示すること」に肯定的に回答する教員の割合	文情	R8	R11
			80%	100%
B-4	「グループで話し合っ て考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用すること」に肯定的に回答する教員の割合	文情	R8	R11
			80%	100%

B-5	「児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導すること」に肯定的に回答する教員の割合	文情	R8	R11
			80%	100%
B-6	「児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導すること」に肯定的に回答する教員の割合	文情	R8	R11
			80%	100%
B-7	多様な児童生徒の実態に応じて、 ICT を活用した学習活動等の支援を実施した教員の割合	柏教	R8	R11
			80%	100%



ア 校務DXの推進

- デジタル学習基盤の活用により校務の効率化を図り、学校の働き方改革を推進する。
- 現状のシステムを見直し、実態や時代に即したシステムの構築を検討していく。
- 教職員の教育情報セキュリティへの意識を高めていくとともに、教育情報セキュリティに関する状況の変化等を踏まえて見直し・改善を図る。

イ デジタル教材の活用推進

- デジタル教科書やデジタル教材を導入したり、公開されているデジタル教材を周知したりすることで、児童生徒の学びの充実を図るとともに、教員の教材作成業務の負担軽減を図る。

ウ データ利活用の推進

- 児童生徒の生活や学習の記録をわかりやすく可視化することで、児童生徒自身が学びを振り返ることや教員がよりきめ細やかな指導を行うなど、学びの改善・充実につなげていくことやこれまでの児童生徒の学びや生活に関する情報や知見を共有する仕組みを検討していく。



【KGI】

デジタル学習基盤を軸に、教育DXに取り組んでいる学校の割合

→目標値100%

【KPI】

項目	内容	調査	目標値	
C-1	ICTを活用した校務・事務負担軽減のための取組として、教職員間の情報交換や会議のペーパーレス化など、校務へのクラウド活用の推進状況	柏教	R8	R11
			80%	100%
C-2	ICTを活用した校務・事務負担軽減のための取組として、学校と保護者間の連絡手段としてのクラウド活用の推進状況	柏教	R8	R11
			80%	100%
C-3	ICTを活用した学習指導に係る業務（授業，授業準備，課題作成等）への取組状況	柏教	R8	R11
			80%	100%
C-4	教育データ利活用の推進状況	柏教	R8	R11
			80%	100%



(3) 基本的な方針を実現するための方向性

資料01【本編】
P37～55

資料02【概要】

第2章 各論

I 基本的な方針を実現するための方向性 P37～43 (1) ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成



項目	目標達成指標	達成のための具体的な取り組み(施策)
A-1	端末を使うことは学校の活動に役立つと考える	<p>a. 「情報活用能力体系表」を活用したカリキュラム・マネジメントの推進</p> <p>b. 柏市情報リテラシー育成カリキュラムの推進</p> <p>c. 授業設計を学校と家庭の学びを連続させた学びの設計に拡張</p> <p>d. 高等学校の教科「情報」への円滑な接続</p> <p>e. 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実</p> <p>f. 個別最適な家庭学習の推進</p> <p>g. プログラミング教育, STEAM教育の充実</p> <p>h. 生成AIの効果的な活用事例の創出と周知</p> <p>i. 柏市情報モラル育成プログラムの実施</p> <p>j. 情報安全啓発講演の実施</p> <p>k. 健康的な活用のための啓発リーフレットに基づいた指導の徹底</p> <p>l. フィルタリングによる不適切なサイトへのアクセス防止及び深夜の時間帯における時間制限</p> <p>m. 端末利用状況の振り返り可能なデータ利活用</p>
A-2	学習に必要なことを, 端末を活用して集めることができる	
A-3	学習に必要なことを, 端末を活用して整理することができる	
A-4	学習に必要なことを, 端末を活用してわかりやすくまとめることができる	
A-5	端末を使った話し合いをして, 自分の考えを相手に伝えることができる	
A-6	自分に合った学習の仕方を自分で決めて学習を進めることができる	
A-7	プログラミングや生成AIなど様々なデジタル技術を問題解決や探究的な活動に活用することができる	
A-8	端末を使うときに, 情報に対する責任について考え, 学校や家庭で決められたルールを理解し, よりよい使い方ができる	

第2章 各論

I 基本的な方針を実現するための方向性 P44～50 (2)教職員のICT活用指導力の向上と人材確保



項目	目標達成指標	達成のための具体的な取り組み(施策)
B-1	教員が日常的にデジタル学習基盤を活用した授業を実施する。	
B-2	教員が児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり, 比較検討させたりするために, デジタル学習基盤を活用して児童生徒の意見などを効果的に提示できる。	d. I人I台端末を活用した授業改善検討委員会 (ItoI委員会)
B-3	児童生徒がグループで話し合っって考えをまとめたり, 協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に, デジタル学習基盤を効果的に活用できるように指導できる	b. 教職員のアウトプットの場の設定 c. 柏市情報共有掲示板の活用推進 d. 各学校からICT活用実践事例の提出及び周知 e. 要請訪問等での指導主事による指導・助言
B-4	児童生徒がデジタル学習基盤を活用して, 情報を収集したり, 目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導できる	f. 新たなデジタル技術の活用支援 g. サポート体制の構築
B-5	児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように, デジタル学習基盤を活用することを指導できる。	
B-6	教員がICT活用に係る研修を受講又は実施することができる	h. 情報教育研修の充実 i. 高い専門性を有する人材との連携
B-7	多様な児童生徒の実態に応じて, デジタル学習基盤を活用した学習活動等の支援を実施できる	j. 特別支援教育におけるICT活用の充実 k. 特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する指導の充実 l. 児童生徒の実態に応じた学習機会の提供の推進



項目	目標達成指標	達成のための具体的な取り組み(施策)
C-1	教職員間の情報交換や会議のペーパーレス化など、校務へクラウドを有効に活用できる	<ul style="list-style-type: none"> a. ICTを活用した校務の効率化 b. 次世代の校務支援システムの導入に向けた準備 c. 日常的なデジタル学習基盤活用推進に向けた体制づくり d. 「柏市教育情報セキュリティポリシー」の定期的な周知・運用の確認 e. 学校保護者間連絡システム活用方法の検討
C-2	学校と保護者間の連絡手段としてのクラウドを有効に活用できる	<ul style="list-style-type: none"> f. MEXCBTにおける活用の充実 g. デジタル教科書及びデジタル教材の導入, 教育コンテンツの活用事例の収集や活用の促進
C-3	学習指導に係る業務(授業, 授業準備, 課題作成等)にデジタル学習基盤を積極的に活用できる	<ul style="list-style-type: none"> h. 児童生徒実態把握のための教育データ利活用の方法の検討 i. 児童生徒自身へのフィードバックのための教育データ提供の検討
C-4	教育データの利活用方法を検討し, 段階的に実施している	